

第 4 回 知識共創フォーラム 発表募集のご案内

＜<http://www.jaist.ac.jp/fokcs/>>

知識は、人間の生命・安全保障から企業・都市・国家の経営、そして地球規模の持続可能社会構築に至るまであらゆる社会的活動の中核を担う要素です。旺盛な知的好奇心をもって、個人や組織における知識の創造・共有・活用に潜む知的神秘を解明し、より高度に成熟した知識社会を実現していくための指針を提案していくことは、知識科学の大きな学術的使命です。この実現のためには、

1. 幅広い視野に基づいた社会や生活における知識の深い洞察と問題提起
2. 知識の創造・共有・活用に関わる前例にとらわれない独創的な仮説やモデルの構築
3. 知識を適切に抽出・評価できる方法論による仮説検証とモデルの洗練

を継続的に行っていくことが必要であり、同時に、研究者や実務家との分野を超えた密度の濃い議論が不可欠です。

このような意識のもと、研究報告者と参加者が知識を共に創造していくことを通じ、広く知識科学研究の基盤を形成していくことを目的として、第 4 回知識共創フォーラムを開催します。

会期：平成 26 年 3 月 17 日（月）、18 日（火）

会場：石川県政記念 しいのき迎賓館、セミナールーム B（石川県金沢市広坂 2 丁目 1-1）

1. 主な構成

第 4 回知識共創フォーラムは、以下の 4 種類のセッションによって構成されます。

I. 招待講演セッション：

招待講演タイトル：「現場発のものづくり戦略」

招待講演者：藤本 隆宏 教授

【東京大学大学院経済学研究科・教授、ものづくり経営研究センター・センター長】

II. テーマセッション：「現場づくりの知識科学」（20 分発表、20 分合同質疑応答）

知識は、研究や開発の場だけではなく、実践の現場における協働を通じて生み出されています。そして、そういった現場で共創される知識こそが、実践において活用され、より深い知識共創・問題解決をもたらしているでしょう。現場とは、アприオリに存在するというより、問題が発見され解決をめざす中で構成される、あるいは創発する、ダイナミックな実践の場と考えられます。その「現場づくり」・現場での／による問題解決に向けたブ

ロセスにおける、知識の創造・共有・活用の活動に焦点を当てる研究は、実践の現場を捉える知識科学の重要な課題です。

本セッションでは、知識を創造、共有、活用する場として欠かすことのできない実践の「現場」における知識共創に着目した発表を、幅広い分野から募ります。すなわち、製造業、サービス業、医療、介護、教育、行政、コミュニティといった様々な実践の場において、現場における問題解決の質を高める研究、現場で起きている知識共創のメカニズムを解明する研究、先進的・イノベーティブ・サステナブルな現場をつくる研究などを求めています。

登壇者は自らの研究活動を基にその解明や問題解決の方向性を提案し、参加者と共に議論を深めることが期待されます。そして、現場づくりの知識科学について議論することで多様な観点からの共通の見解および共同研究の糸口を見出すことを目的とします。このセッションが本フォーラムの中核となります。

III. 一般セッション（20分発表，20分質疑応答）

本セッションでは、各自の知識科学研究の成果を報告し研究を進めることを目的とします。登壇者は知識科学に関連すると考えられるテーマについて、自らの研究活動を魅力的に説明することが期待されます。また、参加者は発表に対し、補うべきロジックや新しい展開の方向性についてアイデアを提供することが期待されています。

IV. シーズ（種）セッション（15分発表，20分質疑応答）

知識の創造・活用を促進させると考えられる、自らの持つ技術やコンセプトの種を成長させることが目的のセッションです。登壇者は自らのアイデアを明瞭かつ魅力的に解説することが、また、参加者は当該アイデアの持つ理論的・実用的意義について考えコメントすることが期待されます。

V. インタラクティブセッション（1時間30分発表および質疑応答）

発表者と参加者たちの間で長時間・双方向のインタラクションが望まれる知識科学に関する研究成果（研究途上成果も含む）についてポスター形式で発表し、参加者との知識共創によって研究をさらに発展させることと目的とします。

議論のポイントを明確にするため、発表者には全参加者に対してショートプレゼンを行っていただきます。参加者は発表者が提示した論点を中心に、発表内容について建設的な議論を行ってください。

2. 対象課題

知識の創造・共有・活用に関わるあらゆる研究を対象とします。特に、以下の課題に関係のある話題を歓迎しますが、これに限るものではありません。

1. 幅広い視野に基づいた社会や生活における知識の深い洞察と問題提起
2. 知識の創造・共有・活用に関わる前例にとられない独創的な仮説やモデルの構築
3. 知識を適切に抽出・評価できる方法論による仮説検証とモデルの洗練

以下、本フォーラムにおける参考キーワードです。

知識科学	ナレッジ・マネジメント	研究開発マネジメント	イノベーション・マネジメント
サービス・サイエンス	医療サービス	知識表現	知識発見
メディア・インタラクション	発想支援システム	スキルサイエンス	デザイン思考
感性情報処理	知識獲得	身体化された認知	認知モデル
制度設計	知識経済	意思決定分析	認知科学
公共政策	地域経営	地域イノベーション	知識人類学

3. 本フォーラムでの発表の取り扱い

- まず、発表のアブストラクト（1000 字程度、かつ、A4 で 1 枚以内）を、下記の「5. 投稿方法」に従って投稿していただきます。
- アブストラクトの内容を複数のレビュアーが査読した上で採否を決定します。
- [II]～[IV]のセッションに採録された方にはフォーラム開催の前に発表に関する研究会報告資料を提出していただきます（ページ数は 4～10 ページの範囲内）。
- なお、インタラクティブセッションに採録された方の研究会報告資料の提出は任意とします。
- 提出された研究会報告資料は、会期中に本フォーラム参加者のみで共有される資料となります。研究会報告資料は同意された方のみ後日ウェブサイトを通じて公表されます。研究会報告資料の公開に同意されない方も発表のアブストラクトは後日ウェブサイトを通じて公表されます。
- 本フォーラムでは博士課程に在籍する若手研究者の研究発表を歓迎しております。研究途上のものであってもシーズセッションやインタラクティブセッションにおける発表と議論を通じて、研究のさらなる発展が行われることを期待しております。

4. 主なスケジュール

- アブストラクト投稿〆切：~~平成 25 年 12 月 27 日（金）~~ 再延長：平成 26 年 1 月 14 日（火）
- 採録通知予定：平成 26 年 1 月下旬
- 研究会報告資料提出〆切：平成 26 年 2 月 22 日（土）
- 第 4 回知識共創フォーラム開催：平成 26 年 3 月 17 日（月）、18 日（火）

5. 投稿方法

知識共創フォーラムのウェブサイト<<http://www.jaist.ac.jp/fokcs/>>にアクセスし、登録の上、アブストラクトの PDF ファイルをアップロードして下さい。投稿に際して、テーマセッション、一般セッション、シーズセッション、インタラクティブセッションのどれに投稿するかを指定していただきます。ただし、選考結果によっては、ご希望のセッションとは異なるセッションに割り当てられることがあります。

アブストラクト原稿のフォーマットは、ウェブサイトにテンプレートファイル（本文 1000 文字程度、かつ、A4 で 1 ページ以内）を用意しましたので、そちらをお使い下さい。フォーマットにありますように英語タイトルを含むようにしてください。また、図表を挿入していただいても構いません。

6. 賞

[II]～[IV]のセッションにて発表された方の中から優秀であると認められた発表に対して賞を授与します。この他に、公共政策、地域経営の実践に寄与する優れた研究に対し、第 1, 2 回知識共創フォーラム開催地である能美市より能美市長賞が贈られます（能美市長賞は研究会発表報告資料をもとに決定しますので、能美市長賞の候補となるには事前にエントリーしていただき、かつ研究会報告資料をウェブサイトで公開することに同意していただく必要があります）。

また、本フォーラムでの議論（質疑応答）をもとに後日改訂された研究会報告資料の中から優秀論文賞と共創賞が授与されます（共創賞のみ[V]のインタラクティブセッションの研究会報告資料も選考の対象となります）。改訂後の賞の対象となるのは本フォーラムのウェブサイトにて研究会報告資料の公開に同意していただいた発表に限ります。

7. 問合せ先

知識共創フォーラム事務局

Email: <office-fokcs@onto.jaist.ac.jp>